

## (12) 沖 縄



沖縄地域では、景気は着実に回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は堅調に増加している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成29年8月)	今回(平成29年11月)	
住宅建設	減少	増加	

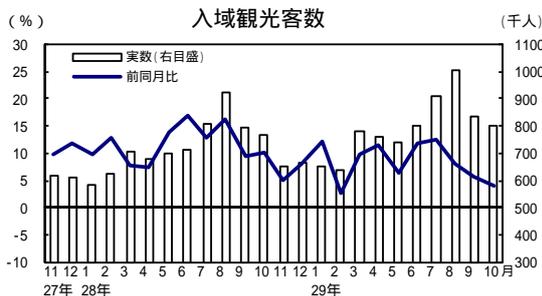
### 1. 観光及び企業動向

#### (1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数のうち、国内客について、7月は、深夜便など航空路線の拡充があったこと等により、前年を上回った。8月は、お盆期間の増便や台風の影響がほとんどなかったこと等により、前年を上回り、単月の過去最高を記録した。また9月は、大型コンサートイベントの開催等により、前年を上回った。

外国客については、7月は、台北・高雄 - 那覇路線の増便を含む航空路線の拡充等により、前年を上回り、単月として過去最高の入込数となった。8月は、トップシーズンの旅行需要に加え、航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数が増加し海路客も増加したこと等により、前年を上回った。9月は、大型連休絡みのチャーター便の就航等で空路客が増加したこと等から、前年を上回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテル共に前年同期を下回っている。



#### 入域観光客数等の動向

(単位: 千人、%)

	29年1-3月	4-6月	7-9月	29年10月
入域観光客数	2,069	2,299	2,748	799.3
(前年比)	8.2	9.8	8.8	4.1
ホテル稼働率	82.6	80.5	88.5	-
(前年差)	2.2	1.3	0.4	-

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光政策課調べ。

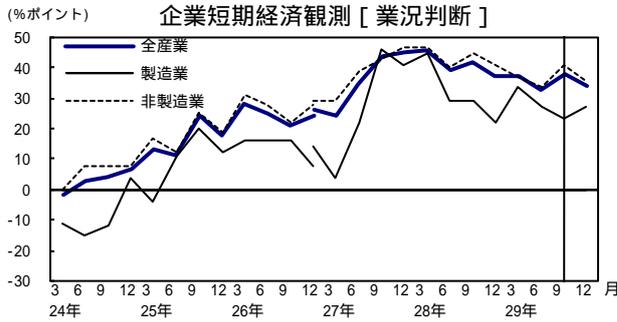
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

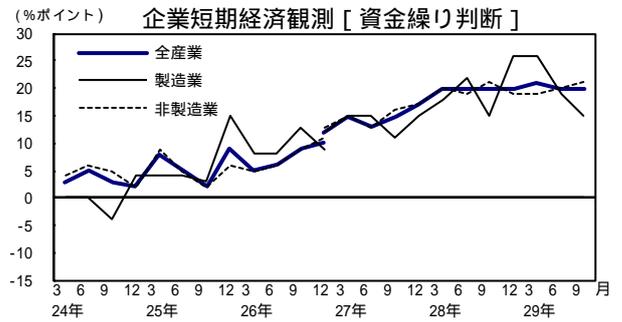
(12) 沖縄

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

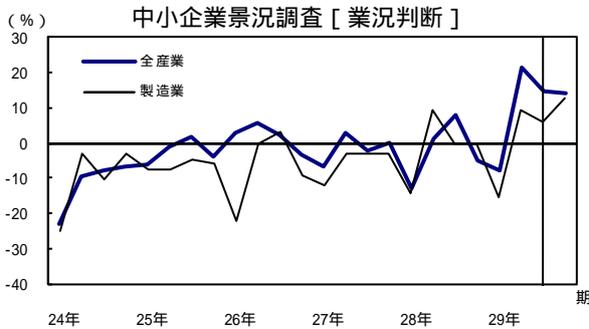
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年12月は予測。  
26年12月は新・旧基準を併記。



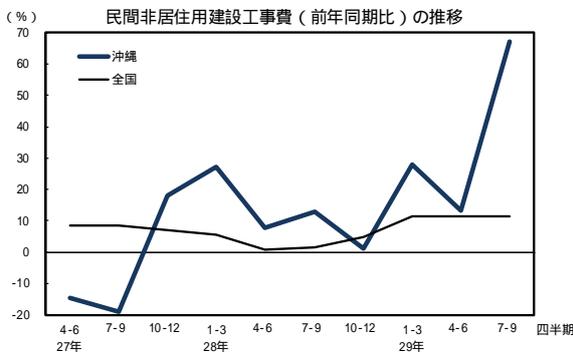
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]  
「公共向け出荷は減少、民間は横ばい、全体でほぼ横ばいとなった(窯業・土石製品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて大幅に増加している。



(備考)29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	28年度実績	29年度見通
全産業	28.3	42.8 ( 7.8)
製造業	113.5	5.6 (7.0)
非製造業	19.2	50.0 ( 9.5)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は堅調に増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

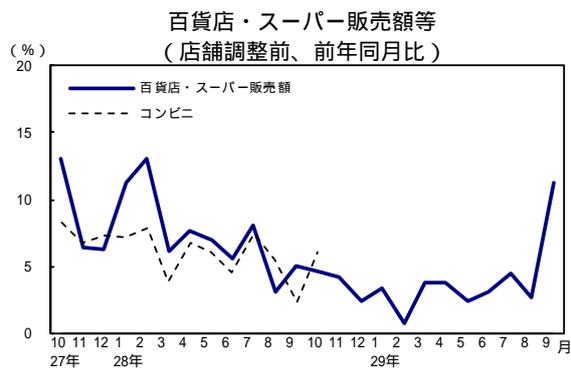
7月は前月比0.3%増、8月は同1.2%減、9月は同0.7%増となった。

百貨店・スーパー販売額

7月は、旧盆が前年より後ずれしたことにより食料品等が不調だったこと等から前年を下回った。8月は、旧盆の後ずれにより中元ギフトが伸長したことや外国人観光客による消費が好調だったこと等から前年を上回った。9月は、中元ギフトの伸長や催事効果で食料品が伸長したことや外国人観光客による消費が好調なこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月) [家計動向関連 (現状)]

「夏のシーズンに比べれば落ちてきたものの、10月はイベント続きで景気は良くなると予測していた。しかし、台風続きでなかなか伸びない(衣料品専門店)」など、「変わらない」とする回答が増加した。

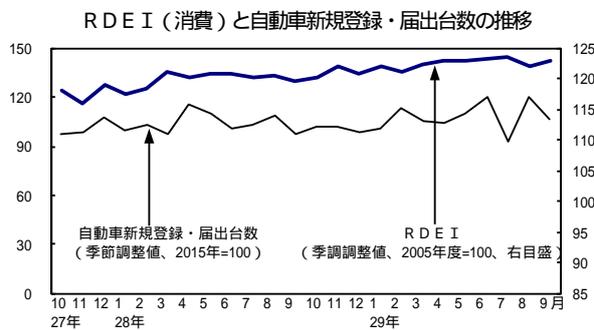


	20年7-9月	20年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.1	0.3	1.2	0.7
百貨店・スーパー(*2)	6.0	4.5	2.7	11.3
コンビニ(*2)	11.1	12.3	10.8	10.2
乗用車(*3)	0.5	9.8	10.9	7.8
(季節調整値)(*3)	4.5	22.1	28.5	11.3

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 百貨店・スーパーは経済産業省調べ(店舗調整前)、コンビニは日本銀行那覇支店調べ、2016年11月以降の計数は不連続。前年同期(月)比 (%)

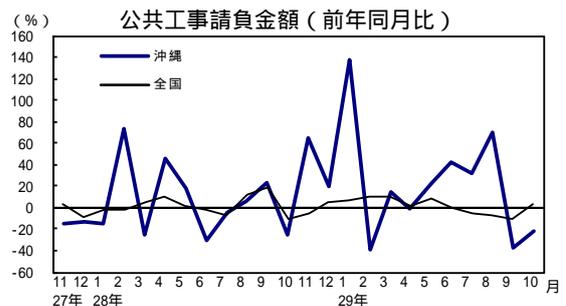
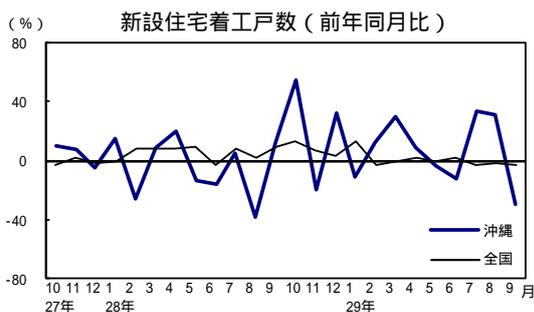
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%) )



(2) 住宅建設は前年に比べて増加している。

分譲が前年を下回ったものの、貸家が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を上回っている。

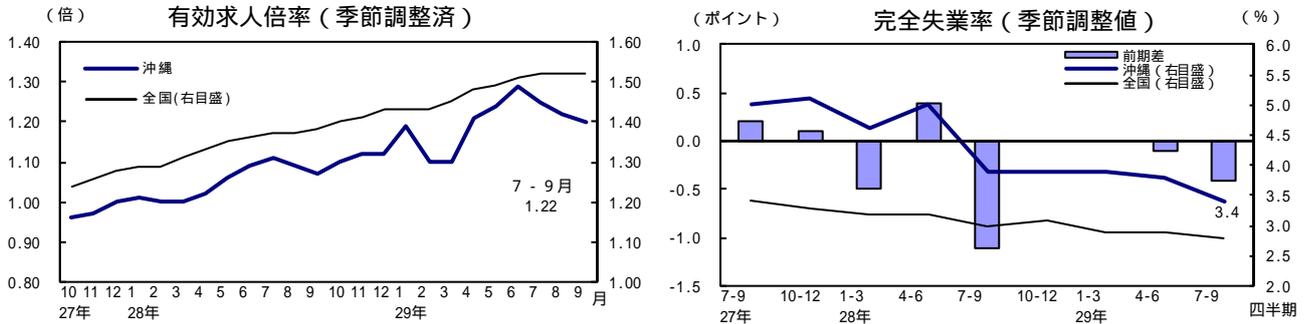


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考)沖縄県「労働力調査」の月次値を、内閣府にて四半期平均化。

景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

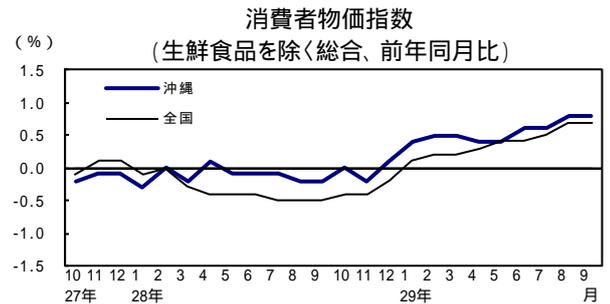
「3か月前と比較すると週平均で19件ほど減少はしているが、大きな増減はみられなかった(求人情報誌製作会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	29年				
	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10月
倒産件数	9	20	8	7	4
(前年比)	43.8	33.3	33.3	16.7	100.0
負債総額	12	27	6	5	3
(前年比)	35.3	1.5	28.6	32.4	13.7



景気ウォッチャー調査 (10月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・前年同様に台風の影響で1日臨時休業となったが、前年売上はクリアできた。しかし、内容的には地元客で伸びたのではなく、インバウンド客による底上げがプラスとなった。化粧品やキャラクターグッズ等が人気となっている(百貨店)

<先行き>

- ・従来の割引単価を撤廃し、高単価の客層を既に確保している。売上倍増の計画をしている(ゴルフ場)

景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

